



南アフリカ新聞号外③

# SABONA

鈴木 壮太

任地の算数教育の実態パート2です。今回は定期テストやワークブック、また、算数セット等の教具についてです。

## Q. 児童を評価するための定期テストはどのようなものか？

学期末に必ずテストを行います。このテストの難易度は高くはないと思うのですが、そのまま児童にテストを行わせると多くの児童があまり問題を解けずに終わってしまいます。そのため、担任は全員にテストを配った後、テストの内容を入念に確認します。たまに答えを言うこともあります。そして、いよいよ児童が解き始めますが、多くの児童が解けない問題があると、また答えを教える場合があります（黒板に書いた解法と答えはその後消します）。その後、テストを終えた児童は担任に答案用紙を見せに行きますが、あまりに答えが違う場合は、担任がその児童に解き方を教えた後、その児童をまた席に戻しテストをやり直しさせます。これを繰り返して児童の多くは何とか良い点を獲得します。個別に教員に解法を教えてもらっても、記入欄に答えを書けない児童は、落第の可能性があります。学期末テストはいつもこのような感じです。ちなみに児童はカンニングします。しかしカンニング先の答えが間違っていることが多く、あまり意味はなさそうです。

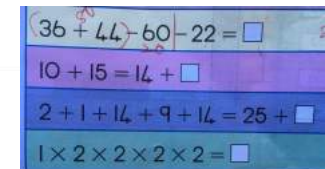
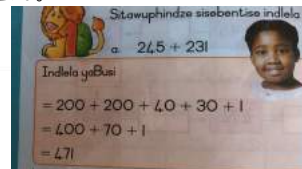
このような具合なので、テストは形式的なものに過ぎないかもしれません。テストの平均点が低いと、その学校長の教育事務所からの印象が下がり、出世の機会を逃してしまいます。そのため校長は自分の昇進、もしくは校長の座を守るために、テストの結果を求めます。こうして意味の薄いテストが存在しています。もし、日本のようにただテストを配って児童に行かせた場合の平均点は30点、もしくはそれ以下になってしまうのではないかと予想しています。

## Q. 学校長や教育事務所はその現状を知っているのか。

教育事務所は分からないのですが、少なくとも学校長は、このような現状を黙認しているのだと思います。私の想像に過ぎませんが、おそらく教育事務所も知ることだと思います。ただ、まれにテスト期間に教育事務所の人が来てテストの様子を見に来るそうですが、そのとき担任はテストの説明をできないようです。一応教育事務所の方は、不正がないように監視しようとする姿勢は見せているのかもしれませんが。また低学年においては、テスト前に、テスト内容の説明を行っても良いことになっているようです。理由は、問題文を読んでも問われていることが理解できない児童が多いからだそうです。スワジ語（現地語）を理解できていない児童に、算数の問題を出しても確かに解けないことは理解できます。そしてようやく現地語を習得し始めた4年生からは、テストの問いが英文になります。児童は英語の能力が高くないので、これまた問いの意味が分かりません。そのため、言語習得が追いつかない状況でどの学年もテストを行っていることになっていきます。そう考えると、答えに近いものを教えるのはどうかと思いますが、テスト前の教員の説明は必要になってくるかもしれません。

## Q. 児童が普段使用している算数のワークブックはどのようなものか？

ワークブックは、質が良いとは言えません。進度が早かったり、児童の思考の流れに沿っていなかったりする部分も多いように感じます。また、誤字脱字もしばしば見られます。そのようなミスがあってもなかなか修正されず、教員も児童も混乱してしまうことがあります。しかし、日本のように話されている言語が1つなら良いのですが、南アには11個の言語があります。これを作成する側も大変だと思うので、内容が分かりにくくても、ワークブックが11言語分あるだけでもありがたいことかもしれません。



245の1の位5の足し忘れが！ 黄色部分。答えがマイナス

## Q. なぜ教具を使わないのか？

算数セットが置いてあるクラスでも、現地の教員が指導を通してそれらの教具を用いることはほとんどありません。使い方がわからないのに加え、その方法を勉強するのも億劫に感じているのかもしれませんが。なぜなら教えている教員は、算数セットを使わなくても計算式を解くことができるからです（当たり前ですが）。時間をかけてわざわざ具体物を操作させなくても、口頭で手短かに教えた方が楽ですし、確かにそれで数人の児童は理解できてしまいます。このように、子供の思考の流れに合わせて指導をするのは彼らにとって今のところ難しい、というより、その部分に意識がないように思われます。具体物を操作させることの重要性を教員に理解してもらうことには苦戦しています。

逆に教具をそこまで準備しなくてもできる掛け算の学習なら、現地教員にも負担が少ないのではないかと思います、最近実践しています。教員の反応は良いです。かけ算の学習は、1の段から9の段までの指導法がほぼ同じなので、現地教員にも分かりやすいですし、教材を用意する手間もあまりかかりません。これなら自分にもできそうと思ってもらえたようです。というのも、前任校で私が教えた3年生が九九を唱える動画を見せたのがきっかけで、教員の意欲が出てきたようです。同じ南アの、しかも隣の小学校の児童がすらすらと九九を唱える様子を見て、親近感が湧いたのでしょうか。外国人である日本人が提案するものは今ひとつの反応の場がありますが、同じ境遇の児童が日本人の指導により、ある程度成果が見られたのを知ると、それなら私たちもやってみたいと思ったようです。

## Q. 算数セットの導入だけでは効果は薄いのか？

現在 NGO 団体と協力して算数セットの導入を試みようとしています。算数セットの導入についてはモデル校を設定して、その成果を他校に少しずつ広めていくと良いと思います。算数セットを用いた指導をすれば、子供たちが理解しやすいのは明らかです。算数セットが指導に活かされれば児童の数学力は格段に上がります。

導入する際の課題が以下の通りです。

- ① 管理面。算数セットの所有者が個人ではなく学校である場合、セットの中身に名前を描くことができず、中身の紛失が多くなる。
- ② 指導面。算数セットを送るだけでは現地教員がその使い方を把握できず、授業内で適切に使用されない。
- ③ 意識面。算数セットの有用性を現地教員に気付いてもらう必要がある。
- ④ 意欲面。有用性に加え、算数セットを用いた指導法を学ぶ意欲を教員にもってもらう必要がある。
- ⑤ 組織面。算数セットの使用方法、それを用いた指導法を紙媒体で渡すだけでは、現地教員に読んでもらえない。各校、算数セットを適切に扱える教員育成のための定期研修が必要。
- ⑥ 教材面。現ワークブックを使用している指導では、進度が早く、算数セットが使いにくい場面が多い。ワークブックの質の向上が望ましい。
- ⑦ 言語面。3年生まで現地語、4年生以降は英語での学習だと、児童の言語能力が算数の内容に追いつかず、理解が大幅に遅れる。

等、課題は多くあります。私個人で解決できる課題はありません。そのため、配属先の小学校の一部の教員に「算数セットを使って授業してみたいな〜。」と少しでも思ってもらえることが当面の目標となりそうです。しかし、今のところそれもやや困難に感じています。そこで今回はこれまで行ってきた【算数セット導入を視野に入れた活動】について、書きます。



教室の片隅で  
眠る算数セット



時刻と時間の授業にて、実際に児童に時計を操作させている様子。具体物があると児童の理解は早い。



算数セット（ブロック）を用いて10を1つのまとまりとして捉えられるようにすることがねらいの1つ。